

Reaction spectroscopy of Lambda Hypernuclei  
by the  $(e, e' K^+)$  reaction

橋本 治 氏 (東北大学 理学研究科 物理学教室)

Prof. Osamu Hashimoto (Department of Physics, Tohoku University)

ハイパー原子核の実験的研究はここ20年程の間に大きく発展した。特に、KEK1 2GeV陽子シンクロトロンにおいては、 $(K^-, \pi^-)$ 、 $(\pi^+, K^+)$  反応による $\Lambda$ ハイパー核反応分光実験が大型スペクトロメータを用いて進められ、ガンマ線分光の成功も相まって、 $\Lambda$ ハイパー核分光学分野が成立するに至った。一方、これら $\pi$ 、 $K$ 中間子ビームによるハイパー核分光研究をさらに相補的に発展させるため、最近になって電子線による $\Lambda$ ハイパー核実験が可能となってきた。

本コロキウムでは、現在東北大学グループを中心に米国ジェファーソン研究所で進めているGeV領域の連続電子線ビームを用いた $(e, e' K^+)$  反応によるハイパー核分光実験の現状と今後の展望について、ハドロンビームによる実験と対比しつつ講演する。

May 28 (Mon), 2007 13:30-  
Nishina Hall, RIKEN

*The Colloquium will be given in Japanese*

Contact: RIBF Nuclear Physics Seminar Organizer

[npsoc@ribf.riken.jp](mailto:npsoc@ribf.riken.jp)

<http://ribf.riken.jp/~seminar/>